



## 連続テレビ小説「花子とアン」 赤十字奉仕団を支えた村岡花子さん

現在放送中のNHK連続テレビ小説「花子とアン」のモデルで、『赤毛のアン』などの翻訳者・評論家として知られる村岡花子さんが、赤十字奉仕団の結成に深くかかわるなど、日本赤十字社の活動の発展に尽力したことをご存知ですか？

村岡さんは昭和23年2月、赤十字奉仕団設立に向けて開催された「奉仕団結成のための懇談会」に各界女性代表22人の1人として参加。これを機に各地で赤十字奉仕団が結成され、5年後の昭和28年に団員数は500万人を超えました。

また村岡さんは、赤十字奉仕団指導講師（本社嘱託職員）として奉仕団メンバーを育成するための講演や寄稿などで、積極的に協力していただきました。日赤が昭和26年まで発行していた雑誌「博愛」の同年新年号に掲載された「赤十字文化懇談会」では、島津忠承社長（当時）らとともに、子どもの教育などについて語っています。

日赤が奉仕団幹部向けに発行した冊子「赤十字奉仕シリーズ3 暮らしの中の奉仕」（昭和35年）で、村岡さんは「たとえ、一人ひとりの力は小さく、弱くても、不幸な人、苦しんでいる人に力添えし、共にこの世の中をよくする方向にむかって進んでいった時にこそ、明るい、ほんとうのしあわせを迎えることができる」と、ボランティアの精神を説いています。

（日本赤十字社社内報「赤十字の動き」9・10月号より）



村岡花子さん



現在放映中NHK「花子とアン」より